

授業科目名	ヒロシマのこころ				科目コード	E1002	
担当者	古澤 敏昭 / 佛圓 弘修				履修区分	必修	
開講年次	1年	開講期	後期	授業回数	15回	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要) 平和とは何か、現在の国際社会において平和の大切さ、難しさを学び、一人ひとりが何をしなければならないかを考え、平和な心と豊かな人間性の大切さを学修する。真の恒久平和は、武力ではなく平和的手段によって、日常生活での地道な実践の積み重ねから実現できるもの。「平和をつくる」ことの意義と具体的方法論について核被爆の実相と「ヒロシマのこころ」に照らしながら考察する。							
(到達目標) ① 「原爆被災の実相」(物理・医学・人道的)の正確な理解 ② 「ヒロシマのこころ」(被爆者の心情・核廃絶への決意)の継承と実践 ③ 「平和を創る」という意識の向上と日常生活での実践、並びに「建学の精神」の体現							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業の妨げになるので私語は禁止。配布のレジメと資料を中心に講義を進める。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容				担当者	日程	
1	「建学の精神」の体現①(被爆体験証言者から被爆の実相を聴く)				古澤 敏昭	10/ 5(月) ③	
2	オリエンテーション (授業の概要や授業計画、評価方法等を理解する)				佛圓 弘修	10/15(木) ④	
3	「建学の精神」の体現②(被爆体験証言者から復興にかける使命を聴く)				古澤 敏昭	10/19(月) ③	
4	広島市における平和教育実践(「へいわノート」・「たずねびと」を読み解く)				佛圓 弘修	10/22(木) ④	
5	見学の計画立案(指導者の視点で計画を立て、個人論文の見直しを作る)				佛圓 弘修	11/ 5(木) ④	
6	フィールドワーク①(広島平和記念資料館を見学し、記録をまとめる)				佛圓 弘修	11/ 7(土) ①	
7	フィールドワーク②(被爆体験証言者から被爆の実相を聴き、記録をまとめる)				佛圓 弘修	11/ 7(土) ②	
8	フィールドワーク③(国立原爆死没者追悼祈念館で各自「たずねびと」を探す)				佛圓 弘修	11/ 7(土) ③	
9	フィールドワーク④(原爆供養塔・碑・被爆樹を巡り、来訪者に聞き取りをする)				佛圓 弘修	11/ 7(土) ④	
10	フィールドワークのまとめ①(見学記録を基に個人論文を推敲し、完成させる)				佛圓 弘修	11/12(木) ④	
11	フィールドワークのまとめ②(個人論文をプレゼンし、それを基に対話し合う)				佛圓 弘修	11/19(木) ④	
12	フィールドワークのまとめ③(個人論文をプレゼンし、それを基に対話し合う)				佛圓 弘修	11/26(木) ④	
13	これからの平和教育実践①(「私ならこうしたい」学習指導案を構想する)				佛圓 弘修	12/ 3(木) ④	
14	これからの平和教育実践②(「私ならこうしたい」構想を模擬授業化する)				佛圓 弘修	12/10(木) ④	
15	「平和を創る」行動化(「ヒロシマ」から「ひろしま」へシフトする)と振り返り				佛圓 弘修	12/17(木) ④	
成績評価方法							
授業内で記入するコメントシート 50%、 見学・観察及び討論、プレゼンテーションの内容と主体的なかかわり 50% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
広島市平和教育プログラム/へいわノート		広島市教育委員会					
広島県教育資料		広島県教育委員会					
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
授業での課題等のもとより、平和問題について日常生活でも疑問を感じたら、そのままにはせず、どのように考えるべきかを探究していきましょう。そのうえで、他者と対話することで自分の考えをさらに深めましょう。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
事務室連絡(082-236-2233 内線103)を原則とするが、研究室訪問でもよい。							